

---

OVERVIEW

---

# 「灯りを絶やさない場所」

— みんなの家・かだつての原点とこれから —

特定非営利活動法人

アットマークリアスNPOサポートセンター

2025.05

## はじめに



震災直後の釜石のまちは、瓦礫と静けさに包まれていました。

そんな中、瓦礫の残る市街地の一角に、小さなプレハブを置きました。

商店街とNPOの仮設事務所としてのささやかな拠点。

行政にお願いして設置された仮設トイレと発電機。

夜になると辺りは真っ暗になる中、その小さな場所だけに灯りがともりました。

ほとんどの建物が津波で倒壊した市街地。

瓦礫の中を歩く人々が、ふと立ち寄り、言葉を交わし、時には笑顔がこぼれるようになりました。

そのとき、初めて「場所の持つ力」を痛感しました。

ただそこに“ある”ということだけで、人は救われることがある。

その後、建築家・伊東豊雄さんとの出会いがあり、この経験が「みんなの家・かだって」という形になっていきます。

それから14年。

「みんなの家・かだって」は、釜石の復旧・復興という時代の流れの中で、その時々求められる役割を果たしてきました。

2020年以降は、復興の出口を「持続可能な地域づくりの入り口」と捉え、地域DXの拠点として、新たなステージへと歩み出しました。

そして2025年――

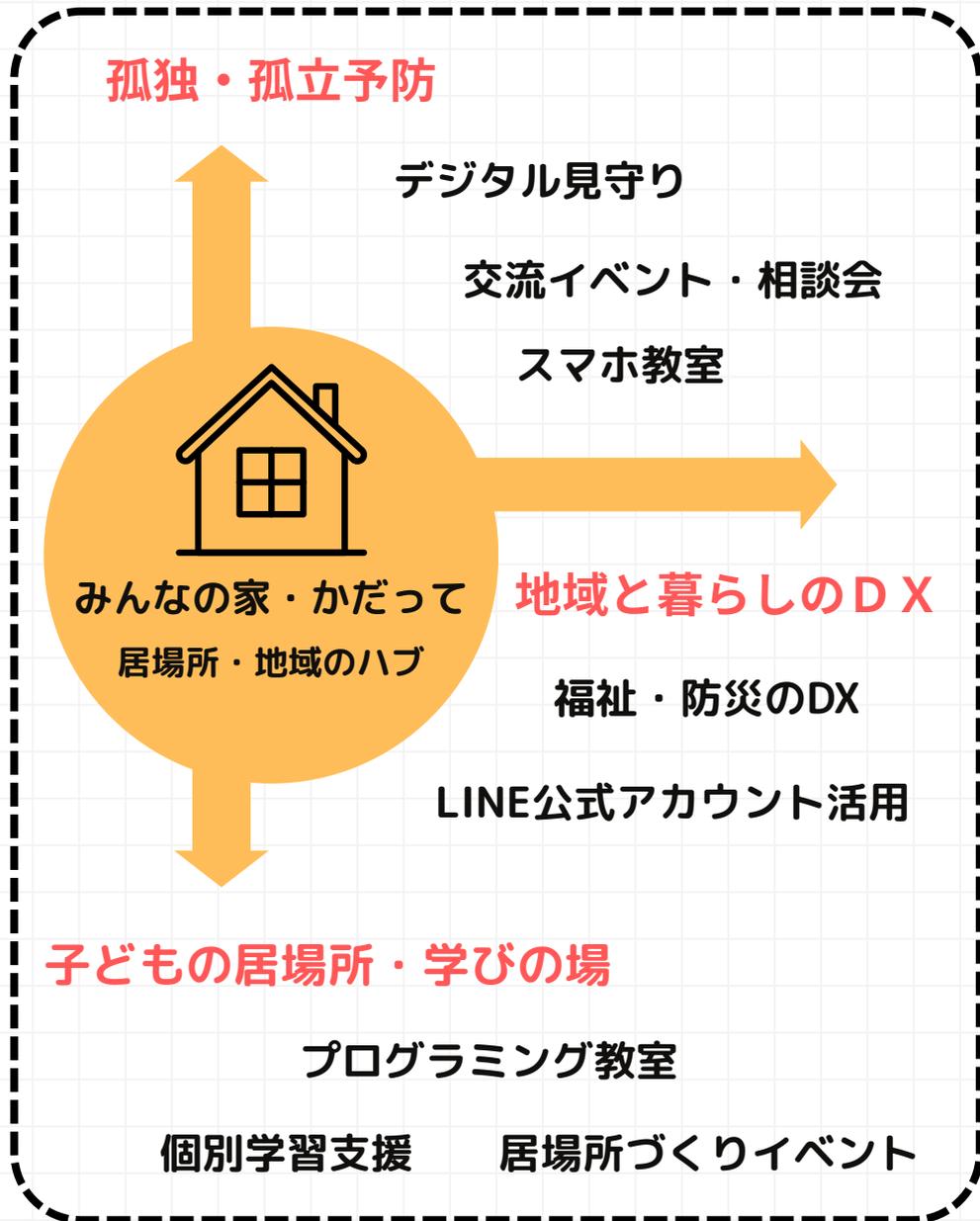
私たちは、少子化・高齢化と並ぶもう一つの大きな課題、「孤独・孤立の予防」に本格的に取り組むことを決めました。

あの時と同じように、「場所の持つ力」を信じて。

今度は、みんなが“理由がなくてもいられる”居場所として、さまざまなプロジェクトのハブとなる「みんなの家・かだって」にもう一度あかりを灯します。



# ビジュアルマップ



- **デジタル見守り（孤独・孤立予防）**
  - LINE公式アカウントを活用した安否確認機能
  - シニア世代との「日常的な接点」をつくる仕組み
  - 個別チャットによる柔軟な対応
- **スマホ教室（全18回）（孤独・孤立予防）**
  - シニア対象の連続講座（3回×6クール）
  - LINEの使い方や写真、音声操作など基礎からサポート
- **交流イベント・相談会（孤独・孤立予防）**
  - 「なんとなく来ていい」日常の立ち寄り場所
  - 楽しみと憩いの創出、誰かとおつながる第一歩を支援
- **地域・暮らしのDX（総合）**
  - 防災・福祉・情報共有など生活密着型のDX導入
  - 市民が“使える”ツールを提供・体験
- **LINE公式アカウント活用（DX）**
  - 地域SNS的な情報発信とコミュニケーション
  - 多世代交流のきっかけを仕組み化
- **デジ町防災LINE（DX）**
  - 災害時・平時の両方で使える防災支援システム
  - 自治体連携を見据えた導入・運用
- **プログラミング教室（子ども支援）**
  - マインクラフト等を用いた論理的思考の体験型学習
  - 子どもたちが自信を持って取り組めるIT教育の導入
- **個別学習支援（子ども支援）**
  - 無理なく通えるサポート型の学習支援
  - 学校外での居場所づくりと関係構築をサポート
- **居場所づくりイベント（子ども支援）**
  - 体験・遊び・創作を通じた子ども向けイベント
  - “学び”と“つながり”の両立を支援

## 「誰かとつながるきっかけを、日常のなかに。」 — デジタルとリアルで、孤独・孤立を防ぐ —

### 背景と課題

- 高齢化が進む釜石市では、独居高齢者の増加が顕著。
- 復興公営住宅などに住む高齢者の見守り支援が終了し、新たな枠組みが必要。
- 地域との接点が希薄になることで、孤立が深刻化。

### みんなの家が担う役割

- 来訪を促すきっかけとしての「コンテンツ」（スマホ教室・交流会など）
- “目的がなくても来ていい”という開かれた居場所
- スタッフによる声かけや相談対応、見守り体制の整備

### 具体的な取り組み

取り組み名	内容	対象
スマホ教室（全18回）	シニア向けスマホ講座（LINE活用、写真、検索、公式アカウント登録など）	高齢者
LINE見守り	LINE公式アカウントを用いた「元気ですか？」チェックと個別チャット機能	高齢者+家族
交流会・相談会	コーヒーやおしゃべりを通じた気軽な交流+必要に応じた個別対応	地域住民・独居高齢者
デジタル相談室	タブレット・スマートスピーカー体験、IoT家電相談など	高齢者/家族

## 「地域のつながりに、デジタルの力を。」 — 暮らしを支える地域DXの実装 —

### 背景と課題

- 地域課題の複雑化（高齢化、少子化、災害リスク）
- 情報格差（デジタルデバイド）が孤立を生む要因に
- DXは「業務改善」ではなく「暮らしと命を守る道具」である

### アットマークリアスの視点

- DXの「D」は「デジタル技術」、「X」は「変化・再構築」
- 自治体DXや防災・福祉領域での活用が重要
- 市民が使える、日常に根づくツールとしてデジタルを展開

### 具体的な取り組み

取り組み名	内容	拠点・対象
防災DX勉強会（日本郵便助成）	災害時に役立つLINE防災通知やハザードマップの活用等	地域住民／関係機関
LINE公式アカウント活用	情報配信・個別チャット・アンケート機能など	全世代
デジ町防災LINE	町内会や地域団体と連携した日常防災の仕組みづくり	自治会・町内会等
デジ町町内会プロジェクト（後半予定）	地縁型コミュニティの維持支援、事務局機能のDX化	地域団体

## 「地域のつながりに、デジタルの力を。」 — 暮らしを支える地域DXの実装 —

### 背景と課題

- 不登校の増加や学びへの不安が深刻化
- 学校以外の“もうひとつの場所”が求められている
- デジタルスキルは今や“読み書きそろばん”と並ぶ必須リテラシー

### みんなの家が果たす役割

- 勉強だけでなく、安心して過ごせる「居場所」として
- ITやプログラミングを通じた学びの入り口
- 大人とのゆるやかなつながりがある空間

### 具体的な取り組み

取り組み名	内容	対象
プログラミング教室	マインクラフトなどを使った論理的思考・ITスキル育成	小中学生
個別学習支援	無理なく通える学習サポート・個別対応	不登校傾向の児童生徒
居場所づくりイベント	ものづくり・ゲーム・話し合いの場など、興味を軸にした交流	地域のこどもたち

「ただ、ここにいていい。」

— 誰にとっても開かれた、地域の“安心の場” —

### この場所の成り立ち

- 震災直後、瓦礫の中に立てた小さなプレハブから始まった“場所”の力
- 建築家・伊東豊雄氏との出会いにより、「みんなの家・かだって」が誕生
- 震災後14年、復旧から復興、そして持続可能な地域づくりのハブへと進化

### この場所が担う役割

- 誰もが「理由がなくても立ち寄れる」安心の場
- 多世代の交流と、デジタルによる支え合いの拠点
- 地域課題にも個人課題にも寄り添う“中間領域”

### この場所から広がるつながり

- LINEでの見守り
- プログラミング教室での新たな学び
- 相談や交流が生まれる小さな日常の会話
- 地域の人々が「また行こう」と思える居場所に



「この場所を、続けていくために。」  
— あなたの思いが、誰かの安心になります —

### ご支援の使い道

#### 活用先

- 拠点の維持運営
- デジタル機器の整備
- 講座・イベント実施費
- スタッフ人件費

#### 内容

「みんなの家・かだって」の家賃・光熱費・備品等  
スマホ・タブレット・見守り用端末などの購入  
講師謝金・資料作成・参加者へのサポート経費  
居場所を支える相談員・ファシリテーター等

### ご支援のかたち

#### 形態

- 個人寄付
- 企業協賛
- ボランティア

#### 方法

都度寄付／継続寄付（フォーム or 口座振込）  
スポンサー枠、機器協力、協働企画など  
スマホ講座のサポート、イベントの企画運営など

#### 支援者へのお礼（特典）

- 利用者からのメッセージ動画（年1回）
- 支援者名の掲示（希望者のみ）
- 年次報告書の送付

#### 連絡先・SNS情報

📍 所在地：〒026-0021 岩手県釜石市只越町1-3-2  
🌐 HP：<https://rias-iwate.net>  
☎ TEL / 0193-27-8400  
✉ Email（お問い合わせ窓口）[info@rias-iwate.net](mailto:info@rias-iwate.net)



---

## メッセージ

---

あの震災の日から14年。

私たちは「居場所の力」を信じて活動を続けています。  
この場所が、これからも誰かの希望であり続けるように。  
みなさまのご支援を、心よりお願い申し上げます。